

## 子ども・青少年を対象とするサービスの現状と課題： 子ども・青少年読書振興協力事業事例を中心に

国立子ども青少年図書館 企画協力課  
交流・協力担当事務官 朴慶淑（パク・キョンスク）

### 1. はじめに

国立子ども青少年図書館は2006年の開館以来、「子どもと青少年の未来を拓く図書館」というビジョンのもと、「子ども青少年図書館の発展をリードする図書館」、「優れた子ども青少年図書館専門家を養成する図書館」、「子ども青少年図書館協力の中心となる図書館」を運営目標に掲げています。

これを受け、2007年から韓国国内の図書館および関連機関と交流・協力し、様々な読書文化プログラム、読書コンテンツおよびマニュアルを開発し普及させて読書文化プログラムの運営支援事業を行っています。

とりわけ、2012年の全国の学校週休二日制導入および2013年の自由学期制の導入などを受けて様々な機関や団体と協力してプログラムを開発・運営し、訪問型プログラムを運営する取組みなどを行っています。

また国民のニーズや社会の変化に備え、図書館の機能についても「本」だけでなく、展示や公演など様々な文化行事が行われる複合文化空間へと広がっています。

本日の発表では国立子ども青少年図書館が子どもと青少年の読書振興のために様々な機関と協力したサービス事例を紹介したいと思います。

### 2. 子どもの読書振興のための協力事例

#### 2.1. 「本、読んでください」（本の読み聞かせ）

2012年「読書の年」を機に子どもに読書習慣を身につけさせるための「本、読んでください」キャンペーンを推進しています。司書、青少年などのボランティアが図書館で黄色いエプロンをつけて、図書館を訪れた子どもたちに1対1で本を読んであげています。2017年現在、全国909の図書館が参加しています。

今年8月からは公共図書館と連携し、国内の著名人が参加する「本、読んでくださ

い」応援メッセージをリレー形式で運営する予定です。一人目のゲストとして今年6月に業務提携を結んだソウル市城東区長が参加し、子どもたちに本を読んであげました。この事業を通じて読書文化の広まりおよび広報活動にさらに力を入れていきたいと考えています。

「本、読んでください」プログラムは2016年のIFLA WLICのポスターセッションで発表され（訳注：‘Read Me a Book at the Library’ Campaign (Yellow Apron Project)）、ベスト3にも選ばれました。

## 2.2. 情報弱者層の子どもたちのための「図書館と一緒に本を読む」

2007年から図書館へのアクセスが困難な情報弱者層（訳注：障害者、多文化家庭＝韓国人と国際結婚した外国人配偶者やその子どもがいる家庭をはじめとする社会的弱者を指す）の子どもたちのために、地域の公共図書館や地域の児童センター、児童養育施設、ドリームスタートセンター<sup>1</sup>などとともに「図書館と一緒に本を読む」事業を行っています。本事業は公共図書館と参加機関が連携して司書（読書講師）が子どもに本を読んであげ、プレゼントや読書感想文など1年間にわたって様々な読書文化活動をサポートするものです。主な成果として、参加した子どもたちは公共図書館に足を運んで図書館会員証づくりや読書キャンプなどを経験することで図書館に慣れ親しむきっかけになります。地域の公共図書館にとっては利用者の層を確保するきっかけにもなります。2016年までに866の図書館で15,556名の子どもたちが参加し、プログラム23,820回、250,712冊をサポートしました。2017年には110の図書館で1,574名の子どもたちが参加しており、最も人気のあるプログラムです。

## 2.3. 3D映像で行う「体験型童話読み聞かせ」

国立子ども青少年図書館は2009年に韓国電子通信研究院（ETRI）とともに童話読み聞かせ体験館をつくりました。大型スクリーンから3D映像が流れる童話をバックに子どもたちの動作がリアルタイムでスクリーンに投影され、まるで童話の中の人物になったような体験ができるプログラムです。子どもの読書振興を目的として国内外の図書館で初めて開発された新たな童話読み聞かせ法です。2017年7月末現在、1,793回行われ、23,317名の子どもが参加しました。これまでに開発・制作したコンテンツはあわせて18種類におよび、忠清北道中央図書館など37の機関にコンテンツを普及させました。

## 2.4. 演劇で読む童話

---

<sup>1</sup> 「ドリームスタートセンター」とは、社会的弱者層の児童にオーダーメイド型の統合サービスを提供し、児童の健やかな成長と発達を図って公平なスタートラインを保障することで幸福な社会構成員として成長できるよう支援する事業を指す。

本と演劇を融合させ、演劇体験を通じて本を読むことで読書への関心を引こうと考えられたプログラムで、小学校レベルに合う本を演劇遊びに再構成し、想像力、創意力、表現力などが身につけられるよう手助けしています。毎週土曜日は疎外階層（訳注：貧困層などの社会的弱者のこと）の子どもたちを優先的に選んで参加を促しており、2017年7月末現在、282回実施し、3,226名の子どもが参加しました。

本プログラムは2007年に韓国芸術総合学校と協力開発したプログラムで、当初の名称は「本を読む遊び場」でした。図書館で自主的に運営していたプログラムを、2014年からは文化体育観光部（訳注：部は日本の省に相当）と韓国文化芸術教育振興院主催の「夢の部屋土曜文化学校」（訳注：週休二日制の施行に伴い休みになった土曜日に行われる文化芸術教育プログラム）の一環として、振興基金を受けて運営しています。

## 2.5. 「登場人物に手書きハングルで送る手紙」

デジタル環境の真ただ中にいる子どもたちに手書きのハングルで読書感想文を書く機会を与え、ハングルへの関心および読書への興味を高めてもらおうと、2015年から全国の公共図書館、国立ハングル博物館とともに推進しています。

国立子ども青少年図書館では参加図書館を募って図書館ごとに手書きの手紙の推薦受付および予備審査を行い、国立ハングル博物館は運用物品（ポスター、便せん）の制作および本審査、授賞式開催などを担当します。参加する公共図書館（145機関）は夏の読書教室の読書感想文活動として手書きハングルの手紙を公募したり、自由公募を実施しています。受賞作は国立子ども青少年図書館、国立ハングル博物館、公共図書館で巡回展示されており、様々な機関による協力事例といえます。

2016年までに496の図書館と16,001名の子どもが参加し、54名にハングルの日（10月9日）文化体育観光部長官賞が授与されました。

## 2.6. 一冊の本で変わる「本の貯金箱」

2016年9月から10月まで韓国銀行、教保文庫（訳注：韓国を代表する大規模書籍小売りチェーン店）とともに地域の書店や図書館を連携して、本の貯金箱30万個を全国の公共図書館に配布しました。子どもたちに本の貯金箱作りの楽しさ、硬貨を集める楽しさ、読みたい本を選んで買う楽しみ、読む楽しみなどを通じて自然と本を読む大人へ成長してもらおうと計画しました。

本事業を通じて図書館の本を読む子どもの利用者と書店が自然と繋がり、地域の書店は図書館と連携して読書文化の振興に貢献し、教保文庫は地域の書店と共生するというプラスのイメージを与え、韓国銀行は眠っていた硬貨を集めて硬貨鋳造のコスト削減効果を得ることができました。

## 2.7. 絵本作家と行う「作家と一緒に絵本を読む子ども」

「作家と一緒に絵本を読む子ども」は国際児童図書評議会の韓国支部（KBBY）との共催で行う図書館外プログラムです。毎月、韓国の絵本作家を迎えて絵本関連の読後活動や演劇などの文化公演や、英語のストーリーテリングを織り交ぜた読書文化プログラムを行っていて、KBBYは作家、公演ボランティアとの折衝、プログラム進行を担当しています。2016年1月から2017年7月までで子どもの本の専門書店で11回、983名、2017年に子どもリハビリ病院で2回、240名が参加しました。

### 3. 青少年の読書振興のための協力事例：自由学期制連携プログラムを中心に

#### 3.1. 「1318（訳注：13～18歳の意）本の虫たちの図書館占領記」

2007年から、青少年の自発的な読書習慣づくり、学校図書館の活性化および学校における読書文化醸成を目的に、毎年全国の中高等学校を対象に公募・選定を行い、読書文化活動を1年間集中的にサポートしています。2016年までに中高等学校418校で4,224回の読書文化プログラムを行い、602,516名が参加しました。

学校図書館は、司書（司書教諭）と生徒がともに読書文化プログラムを企画・運営し、2,040名の生徒からなる「本の虫リーダーズ」が構成され、青少年が直接青少年推薦図書目録作成に参加し、オンラインコミュニティに活動後記や書評を書く活動を行うなどの自発的な参加を引き出しており、読書文化プログラムの進行をサポートします。

国立子ども青少年図書館は図書、物品、講師料などの運営支援、オンラインコミュニティの運営、青少年推薦図書リストの作成・配布、マニュアルの配布およびワークショップ開催といったサポートを行っています。2017年IFLAのポスターセッションで発表するプログラム（訳注：'Library Adventure by Bookworms Ages 13-18' Project）であり、青少年プログラムの中でも最も人気のあるプログラムです。

#### 3.2. 訪問型オーダーメイドプログラム「図書館の宝箱」及び「学校外青少年読書プログラム」

2014年から、文化的基盤の乏しい全国の農山漁村地域の中学生を対象に、訪問型オーダーメイド読書文化プログラムを開発し普及を図っています。本プログラムは国民体育振興基金の支援を受け、国立子ども青少年図書館の主催で事業施行者を選んで毎年公募で進めているもので、学校の教育コンテンツ強化や青少年の創造力向上に貢献しています。

本プログラムは、中学生に必要なテーマ（図書館、想像力、友人など20種類）を決めて、プログラム運営マニュアルおよび活動誌、推薦図書リスト、活動用品（世界地図など）などを開発してキットの形にします。なかでもテーマやプログラムを学校司書（教師）、青少年プログラム専門家、国立子ども青少年図書館関係者など、様々な

専門家の協力のもとで開発しているため、非常に効果が高いといえます。また、教師が読書文化プログラムを運営しやすいように、参加学校に直接出向いて運営者のワークショップを開催しています。2017年7月末現在で54校に広がり、1,442名が参加しました。

また、「学校外青少年読書プログラム」は、学校という枠の外にいる青少年（訳注：不登校児童生徒や高校中退者等）に読書を通じて認知的、情緒的安定を与え、また進路検討の機会を提供すべく、2016年7月から運営を開始しました。2017年現在、全国の公共図書館16館と青少年の集会場など24か所で、219名の青少年が参加しています。

#### 4. 文化コンテンツ提供のための協力事例

##### 4.1. グローバルコラボレーション「外国文化の旅」

世界各国の歴史や文化を紹介し、伝統舞踊、絵画、音楽公演や遊び、伝統料理、伝統工芸などを体験する活動を通じて、子どもたちに様々な国の文化に触れてもらうプログラムで、駐韓外国大使館、文化院などの駐韓外国公館と協力して運営しています。毎年年末に駐韓公館を対象にニーズ調査を実施し、参加を希望する機関と協力して運営しています。2006年から2017年6月末の期間に計39回4,223名が参加し、日本文化の旅は2006年に実施されました。

##### 4.2. 駐韓外国大使館および文化院との共同展示の開催

図書館の利用者に様々な外国文化や優れた文学作品に触れて多彩な体験をしてもらうため、駐韓大使館および文化院との協力にもとづいて共同展示を企画、開催しています。韓仏修好130周年（2016年）を迎え、駐韓フランス文化院と共同で2017年「フランス絵本展：Voilà l'album」を開催しました。現代フランス絵本の潮流とフランスを代表する絵本や翻訳書を展示し、展示企画者であるパスカル・アンベール（Pascal Humber）氏による展示と連携した講演を行って、絵本作家や一般利用者から好評を博しました。（6,635名が観覧）

##### 4.3. 芸術家とのコラボレーション『図書館のはなし』

『図書館のはなし』は国立子ども青少年図書館が2006年から発行している月刊誌で、読書コラム、開かれた学びの場、本のはなしなど、子ども・青少年の読書振興に関する情報や図書館に関する情報を提供しています。2014年からは『図書館のはなし』の表紙絵を、芸術家とのコラボレーションで作成しています。2014年にはパプチャン（イラストレーター）、2015年にはアン・ユンモ（画家、インスタレーション・アーティスト）、2016年にはキム・ドクキ（画家）、2017年には国立子ども青少

年図書館の利用者カードと壁画イメージを作成したパク・ヒョンジン、カン・ソクムンの画家夫妻など様々な分野のアーティストが参加しました。

とりわけ今年は、『図書館のはなし』にこれまで参加した作家の展示をリレー形式で開催し、59の公共図書館で巡回展示も行っています。

#### 4.4. 南怡島 (Nami Island) と共同で行った「国際子どもの本の日 ポスター展」

「国際子どもの本の日 ポスター展」は2014年3月7日から開催された展示会で、南怡島と共同で行いました。国際児童図書評議会 (IBBY) が定めた国際子どもの本の日 (4月2日) を記念して、1969年から2014年までに発行されたポスターや子どもたちに伝えたいメッセージを紹介し、国際アンデルセン賞受賞作家の代表作を主に図書館所蔵資料から展示しました。普段なかなか目にすることのできない世界の著名な作家のポスターを紹介し、観覧者から好評を得ました。

### 5. 子ども青少年サービス研究のための協力事例

#### 5.1. 司書の協力体：全国子ども青少年図書館サービス協議会

国内の図書館子ども・青少年サービス発展のための調査研究、司書の専門性強化および協力ネットワーク構築などのために、2006年12月「全国子どもサービス担当者協議会」を発足させました。2017年7月現在、機関会員631館、個人会員482名で構成し、運営しています。

同協議会はその性格を明確にするため、2017年3月16日に「全国子ども青少年図書館サービス協議会」と名称を改めました。主な活動としては会員が相互に発展し親睦を深めることを目的に、定期的に運営委員会および総会を開催し、自主的な実務中心の研究活動のグループである実務分科委員会を毎年運営しています。今年も計4つの実務分科会に35名の司書 (司書教諭) が参加し、子ども資料、教科連携協力、自由学期制の運営、多文化家庭の子ども青少年に有益な研究を進めています。また、毎年海外研修を実施しており、今年は5月にアメリカのニューヨーク公立図書館など8機関で研修を行いました。実務分科委員会の活動結果と海外研修の結果は同協議会のホームページ ([lscclnlycy.go.kr](http://lscclnlycy.go.kr)) で公開しており、誰でも利用することができます。

#### 5.2. 各種学会との協力

子ども青少年サービスの専門性向上と研究のために、関連団体との協力事業を開発、推進しています。2017年には絵本協会と絵本読み聞かせ専門講座を運営し、こどもの日の創始者である方定煥 (訳注：パン・ジョンファン 韓国を代表する児童文学者。1899~1931) を原文で読む会を、方定煥研究所と合同開催しました。また、韓国読書アカゴラ (ACAGORA) 学会、学校図書館文化運動ネットワーク、韓国児童青

少年文学界とも学術イベントを共催して、子ども青少年サービスの質的向上を図りました。

## 6. 今後の課題

近年、インターネットやスマートフォンの使用などで本から遠ざかった子ども・青少年を図書館に呼び戻し、複合文化空間としての図書館機能に忠実たるべく「本」という文化コンテンツを土台に、演劇・公演・展示など様々な文化芸術と最先端の科学技術などを融合させる方向で発展しています。

国立子ども青少年図書館は、国民のニーズと時代の変化に備えて今後も全国の図書館および関連機関（団体）だけでなく、様々な機関と継続的に協力可能な分野を発掘・推進していきます。このように、参加機関ごとの長所や資源を相互共有することで、読書文化振興プログラムにおける協力事業を続けていくつもりです。あわせて国立子ども青少年図書館のホームページ（[nlcy.go.kr](http://nlcy.go.kr)）とFacebookでも、継続して事業の広報およびイベントを行い、協力の効果を最大化させる計画です。

〈参考資料〉

「体験型童話読み聞かせ」の運営状況

(2017年7月末現在)

年度	プログラム	回数(回)	利用者数
2009	三匹のこぶた	4	68
2010	色々できるお友だちなど4種	331	3,718
2011	オズの魔法使いなど6種	316	4,159
2012	ガリバー旅行記など8種	329	5,279
2013	あずきがゆばあさんとトラなど10種	272	5,678
2014	お空とトク、タン、トクなど12種	187	1,785
2015	フンブとノルブなど14種	164	1,151
2016	お日さま、お月さまなど16種	123	978
2017	ピノキオなど18種	67	501
計	計18種	1,793	23,317

「図書館と一緒に本を読む」運営状況

(2017年7月末現在)

年度	参加機関(数)	子ども参加者(名)	図書提供(冊)
2007	16	456	4,693
2008	30	629	8,995
2009	50	890	12,604
2010	75	1,500	18,321
2011	90	1,800	28,918
2012	135	2,700	43,835
2013	135	2,700	43,796
2014	135	2,200	43,174
2015	100	1,238	20,664
2016	100	1,443	25,712
2017	110	1,574	30,007
計	976	17,130	280,719



「演劇で読む童話」運営状況

(2017年7月末現在)

年度	運営回数 (回)	参加者数 (名)	プログラム名
2007	3	111	本を読む遊び場
2008	10	167	
2009	20	584	
2010	22	630	
2011	16	405	
2012	16	411	
2013	12	342	
2014	26	175	夢の部屋土曜文化 学校・演劇で読む 童話
2015	76	164	
2016	56	132	
2017	25	105	
計	282	3,226	

「1318本の虫たちの図書館占領記」運営状況

(2017年7月末現在)

年度	学校数 (校)	参加人数 (名)	本の虫リーダー ズ人数(名)	プログラム 運営(回)	青少年推薦図書 (タイトル)
2007	6	789	67	6	194
2008	30	25,101	589	146	193
2009	40	63,365	807	298	194
2010	40	57,830	768	290	195
2011	40	62,312	768	357	200
2012	40	56,126	817	416	200
2013	40	64,977	772	335	200
2014	40	56,708	800	382	200
2015	40	65,491	816	370	186
2016	102	149,817	1,914	1,624	96
2017	102	46,836	2,040	788	-
計	520	649,352	8,118	5,012	1,858

「外国文化の旅」運営状況

(2017年7月末現在)

年度	回数(回)	参加者数 (名)	国名
2006	4	358	アメリカ、ドイツ、日本、トルコ
2007	2	201	メキシコ、モンゴル
2008	2	150	インド、アフリカ
2009	2	119	フィリピン
2010	4	392	インドネシア、中国、オランダ、ドイツ
2011	4	549	パキスタン、イタリア、デンマーク、ラオス
2012	4	408	ウルグアイ、ブルガリア、ポーランド、スリランカ
2013	3	260	パキスタン、インド、タイ
2014	2	260	ドイツ、パキスタン
2015	4	367	スウェーデン、ドイツ、中国
2016	5	804	ルーマニア、エクアドル、中国(2回)、コロンビア
2017	3	355	オーストラリア、インド、トルコ
計	39	4,223	

駐韓大使館および文化院との共同展示の状況

(2017年7月末現在)

展示期間	展示名	備考
2007年2月5日-5月18日	イギリス子ども図書イラストレーション展「マジックペンシル」	駐韓イギリス文化院
2007年11月16日-12月9日	絨毯にのってトルコへ	駐韓イスタンブール文化院
2008年5月2日-6月19日	ユンデエ (Jung;De) : ドイツの青少年の日常生活はどんなだろう?	駐韓ドイツ文化院
2008年11月27日-2009年2月8日	赤毛のアン(Anne of Green Gables)	駐韓カナダ大使館

2009年8月1日-9月13日	アンクル・サム夏の読書展 (Uncle Sam's Summer Reading Camp)	駐韓アメリカ大使館
2009年12月11日-2010年2月7日	セーシェル文化体験展：セーシェルってどんな国？－セーシールの本と文化4	駐韓セーシェル名誉領事館
2010年10月22日-11月21日	ドイツ現代絵本挿絵展	駐韓ドイツ文化院
2010年12月1日-2011年1月9日	チェコ絵本挿絵展：チェコから来たモグラのクルテク	駐韓チェコ大使館
2011年12月15日-2012年2月15日	アンニョン？ スウェーデン, Hello? Sweden	駐韓スウェーデン大使館
2013年2月20日-3月31日	神秘の魅惑の島、インドネシア ：Wonderful INDONESIA'展	駐韓インドネシア大使館
2013年4月2日-4月21日	デンマークイラスト童話展 ：Illustrated Children's Books Denmark'	駐韓デンマーク大使館
2013年4月30日-5月26日	ポーランド現代子どもの本イラストレーション展：色とりどりのポーランド	駐韓ポーランド大使館
2014年12月16日-2015年2月28日	チェコ作家ラデク・ピラシュと語る絵本のはなし	駐韓チェコ文化院
2015年3月26日-7月5日	アストリッド・リンドグレーンとピッピ	駐韓スウェーデン大使館
2015年11月6日-2016年2月29日	ミヒャエル・エンデ「モモ」作家の生涯と作品	駐韓ドイツ文化院
2016年2月23日-3月27日	チェコ人形劇の3つの魅力	駐韓チェコ文化院
2017年1月17日-3月31日	フランス絵本展 Voilà l'album	駐韓フランス文化院

その他の協力プログラム

(2016年～2017年7月末現在)

日時	プログラム名	協力機関	内容
2016年1月11日-1月13日	2015冬季司書(書評)研修	学校図書館文化運動ネットワーク	司書書評研修<読んで考えて書く>
2016年1月16日(1次)	冬休み「書く能力向上」研修	韓国学校図書館協議会	(司書教師・司書の情報活用能力開発のための)書く能力向上
2016年1月23日(2次)			

2016年1月30日	童話と翻訳研究所 研究発表会および理事 会	童話と翻訳研究所	作文の授業で古典を活 用した童話創作に関す る研究、社会的資本の 蓄積のための童話コン テンツ活用方策研究
2016年2月25日	2016招待特別講演 「方定煥と天道教」	方定煥研究所	招待特別講演「方定煥 と天道教」
2016年5月3日	2016年度小泉（ソチ ョン）児童文学賞授 賞式	株式会社 教学社	第48回小泉（ソチ ョン）児童文学賞本賞お よび第11回新人賞受賞 式
2016年6月11日	2016韓国図書館文化 運動ネットワークシ ンポジウム	韓国図書館文化運動 ネットワーク	シンポジウム「私と図 書館」
2016年6月13日-6 月15日(1期)	本の読み聞かせ教員 研修	ソウル初等本読み聞 かせ研究会	本の読み聞かせで幸福 な学校作り
2016年8月16月- 8月18月(2期)			
2016年6月27日	絵本協会セミナー	絵本協会	絵本協会セミナー
2016年8月8日-8 月10日	2016韓国図書館文化 運動ネットワーク夏 季司書研修	韓国図書館文化運動 ネットワーク	じぶんでやってみよ う！ 小さな卓上人形 劇！！
2016年8月20日	2016 韓国児童青少 年文学学会 夏季学 術大会	韓国児童青少年文学 学会	児童文学とストーリー テリングに関する討論 と学术交流
2016年9月24日	第2回韓国読書アカ ゴラ学術大会	韓国読書アカゴラ学 会	メディア融合の読書教 育とオープンな活動性
2016年10月22日	「YES24 子ども読 書感想文大会」	YES24, 少年韓国日 報（共催）	子どもたちに作文が上 手くなる機会を与え、 国内児童出版関連の発 展と読書文化形成を図 るための大会
2017年1月16日-1 月18日	本の読み聞かせ教員 研修	ソウル初等本読み聞 かせ研究会	コミュニケーションと 共感力を育てる本の読 み聞かせ
2017年2月18日	2017 韓国児童青少	韓国児童青少年文学	1980、90年代の児童文

	年文学学会 冬季学術大会	学会	学に関する討論と学術交流
2017年4月3日-4月6日(1期) 2017年4月10日-4月13日(2期)	2017 ソウルBookの声 サポート団養成研修	ソウル特別市教育庁	退職する教員を対象に、本の読み聞かせ専門人材である「ソウルBookの声サポート団」を養成
2017年4月26日	2017 中国朝鮮族学校 図書館担当教師招待研修	学校図書館文化運動ネットワーク	演劇遊びで模索する生き方と物語 図書館見学、プログラム体験
2017年5月5日	2017子どもの日図書館大祝賀行事	KBS Kids	KBS Kidsとともに子どもの日図書館大祝賀行事として、作家クォン・オジュンの公演を含め、生態保護柵作りやバルーンマイム・コミックショー、子どもNANTAパフォーマンスの公演観覧
2017年5月15日	小泉（ソチョン）児童文学賞授賞式	株式会社 教学社	第49回小泉（ソチョン）児童文学賞本賞および第12回新人賞受賞
2017年6月13日	絵本協会セミナー	絵本協会	絵本協会セミナーおよび討論会「絵本をひらく」
2017年7月13日	2017 方定煥 原文で読む開かれた広場	方定煥研究所	チョン・ヨンテク、アンデルセン、絵のない絵本